
【春の陽気に誘われて】

一さん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【春の陽気に誘われて】

【Nコード】

N2745D

【作者名】

一さん

【あらすじ】

ハヤ×泉のほのぼのです。と言っても、ハヤテは…

ポカポカ陽気に優しい風が流れる春の世界。

今は昼休み、この時が学院内で一番季節を感じられる時間帯だ。

周りの鳥達は、春を喜ぶように飛び周り花と共に風と流れている。その中にはチャー坊もいて家族で楽しく楽しそうだ。

そして、もう一人。

るん るん るん と軽快な足どりで軽いリズムを立てる女の子。ニコニコスマイルを向けながら（誰に？）楽しそうに廊下を歩く。髪を軽く結んで両側からでているピヨン髪が、その少女の心に合わせてピヨピヨと動いている…ように見える。

ふとっ、彼女は足を止めた。そして…

「暇、だ～～～～」

叫んだ。もうこれ以上なく叫んだ。自分の全てをさらけ出すように、おもいつ！つきり叫んだ。

心の中で。

…そう、瀬川泉は今、ものすつごく暇をしている。

その理由とは、例外はあるだろうが、まあ例によってはあの二人がいないからで、

「美希ちゃんも理沙ちゃんも、風邪で休みだなんてえ」

ハア～つと溜め息をつく泉。 結ばれた髪もシュンツと下にうつ向いた。

「バカは風邪ひかないのにい」

おいおい！それはちょっと失礼なのでは！…まあ、ホントのこと
だけ。

「つまんないいゝゝゝ」

再び叫んだ泉。もちろん心の中で。

「ハヤ太くんもないしいゝ」

ハアゝつと、本日二度目の溜め息をこぼす。この調子でいったら、
間違いなく自己ベストを更新するだろう（何の？）

「何かないかな」

そう呟きながら、泉は『楽しいモノ』を探した。

さっきまでは暗い表情をしていたのに、今ではもう『楽』の顔だ。

（この娘って、ホントに表情がコロコロ変わるなあ）

と、若干30歳？の窓が皆さんの言葉を代弁してくれた。

「あつ！！」

（えっ！なに！？）

と急な泉の反応に驚く窓。

泉は外に何かを見つけたのか、窓に手をあてそれを見つめる。

「あれはっ！！」

キュピーンと泉の目が光る。

そして、瞬く間にその『楽しいモノ』へと走っていった。

緑が色つくその場所に少年が一人いた。

白いベンチに座り、自然のまま、この季節を感じている。

ふとっ、一条の風が周りの樹木を揺らした。それにより、一斉に踊りだす緑の子供達。

カサカサカサ、カサカサカサとみんながみんな騒ぎだす。

だが、そこにいる少年は周りの状況とは反して全く動こうとはせず、その水色の髪がなびくだけ。

そんな光景がここに存在する。それは、少年と自然との自分達のセカイ。お互いがお互いに自分達のトキを過ごす安らぎの時間。

だが、そんな彼らのセカイに侵入する者が一名。

ソレはそろりそろりと、少年の背後から近づく。

音を出して気付かれるようなヘマはしない。音を殺して歩み寄る。

一歩

また一歩。

ソレが踏み出す度に少年との距離が無くなっていく。

やがて、少年の背後にまでソレはきた。

満面の笑みを浮かべるその侵入者は、自らの手を少年の両肩から前に出し、顔を覆った。いや、目を隠した。

そして…

「だ〜れだっ」

泉はハヤテに定番であるアレをした。

…

ノーリアクションッ！！

反応がないハヤテに泉は

「んっ？」と疑問を浮かべた。

覆った手を戻し横顔を覗き込む。

…
見ること数秒。

何かに気付いた泉は前に移動し、今度は前から覗きこんだ。

（あはっ）

見ると、ハヤテは眠っていた。

スウ、スウとした息使いで、目は瞑られており、安らかな寝顔をしている。

そんなハヤテを見た泉は、

（ハヤ太くん、寝ちゃってる）

と好奇心一杯であらゆる角度から観察した。

右から左へ、前から後ろ、とチヨコチヨコチヨコ動き回る。拳句の果てには、ハヤテのほっぺをツンツンツン。

（ハヤ太くん可っ愛いい）

と、まだまだそれをやめようとしなない。

（おい！寝てる相手を起こしちゃ可哀想だろ！）

と風がツツコンで見るものの、髪が少し揺れるだけで効果がない。そして、また更に、泉の行動がヒートアップした。

つつくはつねるは、触るは撫でるはのやりたい放題。それがとても柔らかくて、

（可愛い）

とますます回転が上がる一方。

そんな泉は、もお、どおにも止つまっらない

そして、どうして持っているのか、黒ペンをポケットから取り出す。

キュポッ

という音がして、泉はそれをハヤテの顔に近づけていった。

（いったずうらっ　いったずうらっ）

るん　るん　るん　といった感じで楽しそうにと黒ペンを近づける泉。

一方のハヤテはそんな怪しい気配には気付かず、スヤスヤと眠り

についている。

泉の目には無数の星が現れ、キラキラと輝いている。そう、それは近づくにつれより一層輝きをます。

ハヤテの顔に黒がつくまであと30cm

… 20cm

… 10cm

この辺りから、インクの匂いがハヤテの鼻につく。だが、起きる気配は全くしない。

… 5cm

もう少しで本当にペン先が触れる。ああ、悲しいことにそのペンには白で『油性』と書かれている。

一体どんな顔になるか、それはそれで楽しみだ。そして、

… 3

… 2

… 1

ピタッ

ハヤテの頭に一色の黒が舞い降りた。

その鮮やかな黒は着地したと同時に、広げたものを折り畳んだ。

…

泉の手が止まった。

握られたペンはそこから何も動こうとはしない。

それは、泉自身も同じことで全くの無反応。只々ハヤテを見る

ばかり。

いや、ハヤテではなく、ハヤテの頭に乗っている、その黒の…蝶を。

それはヒラヒラとやって来て、自分がペンを付けようとした矢先に、それが先に着いた。

だから、泉は瞬きも忘れその光景をずっと見た。

頭に乗った蝶はそのまま一步も動こうとはしない。

活動を止めたその羽は黒一色。と言っても、漆黒の羽とそこに描かれた、灰色つばい黒の模様で二つで一つだ。

その模様が妙に幻想的で、泉は魅とれてしまった。

いや、模様だけではない。ここにあるセカイ、全てのモノに泉は魅とれてしまったのだ。

ふとっ、視線を下に降ろした。

ハヤテの顔が視覚に入る。

（あつ）

ここで、ようやく泉はハヤテの顔を真剣に見た。

（笑ってる…）

安らかな笑みをして、無防備過ぎるハヤテの寝顔。女性のような端正な顔立ちを何一つ崩さず、『幸せ』を浮かべている。

それに泉は、

（なに…これ…）

何か、心に今まで感じたことのない不思議な感覚を感じた。

熱を帯ていく頬を感じながら、泉はハヤテの頬に手を触れた。

それは先ほどまでとは違う、とても優しい触り方。まるで、赤子に触れる母親のように…

「綺麗だなあ」

素直な感想を述べる泉。手にはますます優しさが溢れ、その行動はまだ続く。

泉は魅了されてしまったのだ。春の陽気を身に包み、この白いベ
ンチに眠る、春の女神に。プリマavera

しばらくして、泉はハヤテの頬に触れる手を引っこめた。
そして、

「やっぱり、やゝめたっ」

と呟き、ペンを握った手を戻してフタをした。
何故そうしたのか、それは泉自身もよくわからない。何となく感
情に流されただけなのか、何となく罪悪感を感じたのか。まあ、お
そらくは前者になるだろう。

そう、これは気まぐれなのだ。

気ままに泳ぐ曇のように、心は只々流されるだけ。
だから、

「ふあ~~~~」

（何だか眠くなって来ちゃったあ）
これも同じ。

眠気に襲われた泉は口を開け、それを隠すように手をそこにやつ
て、大きく大きく欠伸をした。

「春眠暁を覚えず…」とこの季節はよく言う。それはまさしくそ
の通りで、泉が眠たいのも、ハヤテが眠っているのも全て、今が春
だから。だから、今の眠気は心が春に流された、只、それだけのこ
と。

泉は眠たそうな目で再びハヤテを見た。
今日何度見たその寝顔についつい気が緩んでしまう。
本当にとっても気持ち良さそうだ。

（私も…寝ちゃおっ）

そう思った泉はハヤテの隣に腰を降ろした。

そして、泉は春に誘われるままに、今のこの感情に流されることにした。

春の陽気に包まれたこの昼休みに、白いベンチで、穏やかな寝顔で眠る二人の男女。

それがとても幸せそうだったので、若干30歳（？）の窓は頬を緩めながら、二階から温かくその光景を見守ったのだった。

（ふふふ）

e n d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2745d/>

【春の陽気に誘われて】

2010年12月4日15時17分発行